

しっかり学んで税務調査に対応しよう！

税務調査のアドバイスも…愛商連「税研集会」

愛商連・税金問題研究集会が、10月20日に開催され、全県から約40名が参加しました。名古屋北部民商からは、4名参加し、大いに学ぶことが出来ました。午前中は、板平税対部長の主催者あいさつに続き、基調講演「納税者の権利と国民不在の税務行政」と題して、東京から招いた佐伯和雅税理士が、納税者の権利、税務相談停止命令制度、税務調査とどう対峙するかなど、わかりやすく、実例も含め報告。午前中から、参加していた山田和雄・黒川支部長は、「今までで、一番ためになった。佐伯さんは、実にエネルギーな講師でした」と大絶賛。午後から、参加した税務調査中の大島さん夫妻とも、自己紹介しあい、自らの3年前の税務調査の経験も含めて、二人に熱っぽくアドバイス。午後からは、事務局も合わせ北部民商の参加者4名全員が、第1分科会「税務調査・納税者の権利と自主計算・自主申告の推進」に参加。税務調査になっている大島さんは、つい先日、第1回目の臨店調査を受けたので、「署員に調査理由を聞いたけど調査理由が、『無いんです』と言われました。それでも調査は出来るのですか？」と質問。立会人と守秘義務の問題についても質問し、他の参加者や、佐伯和雅税理士からも、貴重なアドバイスをいただきました。後半は、参加者のうち税務調査を受けているのは、大島さんだけだったので、税務調査の経過を話す機会を与えてもらい、[署員からの電話～11項目の事前通知～支部役員会での対策会議～資料の見直し～第一回目の臨店調査]まで、逐一報告。その度に、まわりの参加者から、アドバイスや励ましをもらいました。「今日は、ほんとに参加してよかったです。粘り強く、自分の言葉で要望し、立会人も認めさせ、税務調査を頑張ります。」と決意表明がありました。



第2分科会では、「国保料(税)の値上げを許さない運動交流会」として、国保料の値上げをストップさせるための、それぞれの自治体へ向けた取り組みが話し合われました。また、愛知県社会福祉協議会副議長の澤田和男さんが、「国保料の引き下げはどうすれば実現できるか」と題して報告。参加者は、「市民にも呼びかけ、値上げ反対の署名を集めていく」「インボイス制度による負担の上に、国保料まで上がったなら、商売を続けられなくなるので、頑張りたい」と決意をあらたにしていました。



「全国業者青年交流会に参加できて良かった」



10月5日～6日、岩手・花巻温泉の会場で開催された「全国業者青年交流会」の参加者による報告会が、18日に愛商連で行われました。北部民商から、家族4人で参加した松原秀憲さんも参加。松原さんは「分科会では、広島民商の方々から助成金や補助金の進め方や詳細をうかがうことができ、大変有意義でした。愛知県や名古屋市の事例も自分で調べて今後に活かしていきます。妻も、子育てや家庭のさまざまな問題について、意見を聞くことができ、勉強になったとのことでした。」「今回、代表として行かせていただいたことを大変感謝しています」と話していました。

署名のご協力を

今週の商工新聞に 3種類の署名と返信封筒を折り込んでいます。

- ①名古屋市の国民健康保険と介護保険の改善を求める請願署名
- ②消費税5%以下への引き下げとインボイス制度の廃止を求める請願
- ③女性差別撤廃条約選択議定書のすみやかな批准を求める請願

①は名古屋市あて ②と③は国あての署名です。名古屋市あては、11月と12月に集約します。ご協力ください。

